



緑園西

泉区緑園3丁目39番地
TEL (811) 6030

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuennishi/>

「雨粒」

副校長 菅原 和子

5月も終わり明日から6月に入ります。6月は、梅雨の時期となりいつもの月より雨の降る日も多くなります。先日、児童が登校してきて挨拶をかわしていたときに、2年生のある児童に「おはようございます。今日は雨が降っていて外で遊ぶことができませんね。」と話しかけたら「うん。外で遊べなくて残念です。今日は雨がしとしと降っているんですよ。」と答えてくれました。2年生の児童でしたが、その日の雨の音を「しとしと」と感じながら登校し素敵な表現だなと思いました。

私たちの住む日本では、梅雨がなければ生活をしていく中で大変困ります。水不足、電力不足になり大混乱を起こすことになります。また、米をはじめとする農作物が枯れて食料にも打撃を与えます。この梅雨があるからこそ私たちは毎日、安心して生活を送ることができるのです。

そこで、今月は梅雨にちなんで「雨粒」についての話をしたいと思います。空に浮かんでいる雲の粒は、直径が100分の2ミリ以下と言われていています。また、降ってくる「雨粒」は2〜3ミリ位あると言われていています。ですから「雨粒」の直径は雲の直径の約100倍です。少し難しいですが直径が100倍ならば体積は100万倍になりますから、たった一粒の「雨粒」は空の雲の粒が100万個も集まって降ってくることになります。「雨粒」の直径は、激しい雨の時は、3〜5ミリ位になるそうです。でも、直径が5ミリを超えるような巨大な「雨粒」はめったに降らないそうです。「雨粒」が小さければ小さいほど静かに降り、「雨粒」が大きくなればなるほど激しく騒がしく降ります。そのわけは、大きい「雨粒」は落ちてくる速度が速いので激しく地面にたたきつけるように降ることになるそうです。ところで、雲が出るといつも全部雨となって降るわけではありません。降るか降らないかは、そのときの気象条件が決めているそうです。地球の表面のおよそ半分はいつも雲が覆っているそうですが、そこではどこも雨が降っているわけではないそうです。このように、「雨粒」のような小さなものでも調べてみると面白いことがわかるものです。

これから雨が降る日が続く季節となりますが、児童とともに「雨粒」の音を感じながら梅雨の季節を安全、健康に気をつけながら過ごしていきたいと思っています。

今月も地域の皆様、保護者の方も皆様、本校の教育への変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。